



令和3年度

おやまっ子いじめゼロスローガンづくり 実行委員会まとめ

これって正しい使い方？
～絶対にいじめにつなげないインターネット利用について考えよう～

令和3年度おやまっ子いじめゼロスローガン実行委員会メッセージ

児童生徒のみなさんへ

いじめは、された人にしかわからない苦しみ、心の傷をつくります。軽い気持ちで言った何気ない一言が、誰かにとって心を傷付ける言葉になることもあります。インターネットのいじめも同じです。

自分が人を傷付ける側にならないためには、どうしたらよいでしょうか。画面の向こう側には、自分と同じように何かを考えたり、感じたりする人がいます。ネット上でも普段と同じように相手のことを考えながらやりとりをすれば、いじめになりません。そのためには、「ネットの正しい使い方」や「ネットモラル」について学ぶことも大切です。

「これぐらいなら」という軽い気持ちを捨てましょう。そして、一人一人が「いじめにつなげない」ために、自分がどうすべきか考え、行動しましょう。そうすれば、いじめはなくなります。

いじめをしていい理由なんて存在しません。どんなことがあっても、いじめはしてはいけない。そのようなことを言える人、呼びかける人に一人一人がなりましょう。

おやまっ子いじめゼロスローガンづくり実行委員会
小山市教育委員会



※以下の内容は、第1回～3回の実行委員会（書面会議）で提出された委員の意見をもとに作成しています。

1. 「ネットいじめ」につながるポイント

① 「悪口・仲間はずれ」からいじめに



注意

話題 できる・できないの話

行動 一人をみんなで責める

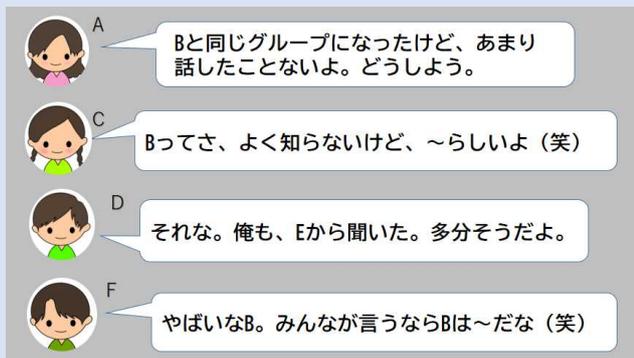
気持ち イライラをぶつけない

【実行委員の意見】

- ・みんなで1人を責めることは圧力がある。数で上回られると孤独を感じると思う。
- ・苦手な人を責めたり、不満をぶつけないするのはどうなのか考えてもらいたい。

思いやりのない言動がいじめにつながる

② 「よくないうわさ」からいじめに



注意

話題 人から聞いた話

行動 不確かな話を広める

気持ち 軽い気持ち

【実行委員の意見】

- ・人から聞くと、印象操作などが起こったり、話が盛られたりして、本当はしていないのに、悪いうわさになってしまう可能性がある。
- ・本人が目の前にいるのと、いないのとでは、言える言葉の鋭さが変わるといった。

無責任な言動がいじめにつながる

③ 「いじりやからかい」からいじめに



注意

話題 見た目に関する話

行動 だれかをいじって楽しむ

気持ち 周りに合わせる気持ち

【実行委員の意見】

- ・いじられた側は「やめて」と言い出せないことがある。
- ・好かれるために自分を犠牲せず、自分を大切にしましょう。
- ・他の人もやっているから、と周りに合わせてしまう。
- ・いじめられないために周りに合わせている。

嫌われないための言動がいじめにつながることもある

2. 「ネットいじめ」の課題と未然防止策

① 「ネットいじめ」の課題

* ネットに特有のもの

表情が
見えない

すぐに
共有・拡散

操作が
簡単

* いじめに共通するもの

いじめられ
たくない

自分から
言い出せない

ウケる！

いじめの自覚がない

このぐらいみんなやってるし

気軽に加わる

自分もいじめられたくない

周りに流される

味方がいない

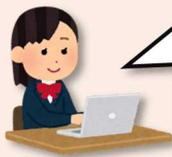
一人で追い詰められる

自分も悪い

相談しにくい

② 「ネットいじめ」の未然防止策

* 「いじめ」につなげないネット利用にするために



利用の
ルールを
決める

送信する前に必ず読み直す

- ✓ 相手を不快にさせないか
- ✓ 相手を傷付けていないか
- ✓ 誤解させるような表現はないか
- ✓ 適切な言葉を使っているか

使ってはいけない言葉を決める

- ✓ ウザい
- ✓ 嫌い
- ✓ 死ね など

使うべき言葉を意識する

- ✓ ありがとう など
- ✓ ごめんね



利用の
仕方を見直す

責任をもてるようになるまで

- ✓ 発信はしない
- ✓ 知らない人とつながらない
- ✓ 必要最低限にする
- ✓ 親と一緒に使う



大人に力を
貸してほしい！

子どもに寄り添って声をかけて！



ネットの話が注意ばかりじゃ
いざというとき相談しにくい。
やさしく声をかけてほしい。

ネットのリスクも教えて！

ルールを決めたら家族も協力して！

* ネットにかかわらず、「いじめ」につなげないために



いつもと違ったら声をかける

- ✓ 表情が暗い
- ✓ 元気がない
- ✓ 口数が少ない
- ✓ ネガティブな発言をする

違和感に気づくために

周囲に目を向ける

何気ないコミュニケーションを大切に



実行委員の意見

自分の言動に責任を！

「他の人もいじめているから」と自分がやったことを少しでも軽くしようとしてしまう。

自分も同罪。自分から抜け出した方がよい。

周りに流されている人は罪の意識が低いと思う。



自分の心を大切に

自分自身を閉じ込めるのはつらい。

「相手に好かれる自分」より、「なりたい自分」

自分の気持ちを理解してもらうためには、まず自分と相手は違うということを理解して、尊重し合う。

3. いじめゼロスローガン

気づいてる？
見えないいじめ
見えない痛み

実行委員の推薦文

思いがけず相手を傷付けるこわさを指していると思う。

「このくらい…」
そんな思いが
いじめの始まり

自分の心の甘さがいじめを引き起こしていることが伝わるスローガン。

「らしいよね」
その情報は
確かなの？

不確かな情報をうのみにしてはいけないことに気付かせてくれると思った。

相手の顔
見えないからこそ
思いやり

ネット上では全て伝わらないから、多様な思いやりを持つことは大切だと思った。

どうしたの？
その一言で
救われる

声をかけてもらうだけで人は救われるということがわかったと思った。

気づいてる？ SOS
あなたの一歩で
世界は変わる

一人一人の「悩む人を助けよう」という心を育てることの大切さを伝えてくれる。

4. 実行委員として活動した感想

改めて「自分らしさ」(個性)の理解と尊重が現実でもネットでも大切なことだと実感した。普段、何気なく使っている言葉の表裏に気付き、自分も相手も気持ちがいい会話ができるようにしたい。

ネットいじめには、軽い気持ちで参加してしまう、周りから気付かれにくいなど、特徴がわかったので、これから先、スマホを持ったら、画面の向こう側の人のことまで考えられるようにしたい。

「いじめゼロ」というこの一言を達成させることがどれだけ難しいかを知ることができた。自分でいじめについて深く考え、その意見を共有できたことは嬉しく思った。今回だけでなく、いじめをゼロにするためにも、しっかりとその言葉の重みを受け止めて生活していきたいと思う。

この活動でできたスローガンを見て、一人でも多くの人がいじめの怖さを知り、いじめについて考えるよい機会になったらいいなと思いました。